

# 芸術科（美術、工芸）における「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法リーフレット

このように感じていませんか？・・・



作品以外にも「振り返りシート」や「鑑賞カード」、アイデアスケッチなど、生徒の成果物はいろいろあるけど、さらに新しい評価材料が必要なのかな。

評価するものが増えたら評価疲れを起こしそう・・・

いつ、何を、どのように評価するのか、自信がないな。

例えば、油彩の静物画の授業で「主体的に学習に取り組む態度」って何をどう評価すればいいのかな？



そんな悩みにお応えするリーフレットです！ 教科に限らず、校内の皆さんでぜひご覧ください！

## 目次

- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の考え方 【p.2へ】
- 府立学校 評価の実践事例 美術Ⅱ：題材「木工・ふた付きパズル」 【p.3～6へ】
- まとめ 【p.7へ】
- 美術、工芸科における学習過程を意識した府立高校の実践事例 【p.8～11へ】
- 参考資料 【p.12～15へ】

# 芸術科美術、工芸における「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の考え方

## ★「主体的に学習に取り組む態度」は「何を」みとるのか★

「A表現」、「B鑑賞」におけるそれぞれの学習活動において、「知識及び技能」を獲得したり、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けたりすることに向けた、粘り強い取組を行おうとする側面と、粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価する。

### 例えば

#### 表現活動

発想や構想を練るためにアイデアスケッチを熱心に繰り返し描いたり、創造的に表す技能を働かせるために材料や用具の特性を生かしたり、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表したりするような能動的な姿に注目する。

#### 鑑賞活動

主体的に作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めようとしていく姿に注目する。

**！重要！**

多様な評価のうち「教員がみとりやすい方法」だけでなく「観点の趣旨の実現状況を的確にみとれる方法」は何かを考える。



※活動の様子、発言の内容、ワークシート、アイデアスケッチ、制作途中の作品、完成作品、など

## 題材の目標

※詳しい題材計画はp.12をご覧ください

知識、技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、パズルのデザインを全体のイメージや作風などでとらえる。</li> <li>・意図に応じて、材料や道具の特性を生かすとともに、表現方法を工夫し、主題を追求して創造的に表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や条件、感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、形や色、構造について考え、創造的な表現の構想を練る。</li> <li>・デザインの目的や機能との調和のとれた美しさや面白さを感じ取り、作者の心情や意図と創造的表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(表現に関する目標) 主体的に目的や条件、感じ取ったことや考えたことなどに基づいた表現の創造活動に取り組もうとする。</li> <li>・(鑑賞に関する目標) 主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の意図や表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとする。</li> </ul>

## 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の具体



題材を通して、生徒のどんな姿に注目したのか。

- ① アイデアの量・質：アイデアスケッチ・メモなど数多く作成している。
- ② **計画性**：主体的に目標を設定し、計画性を持ち、検証や修正と工夫等をおこなっている。
- ③ **学習調整**：制作の進度を調整したり、作品の質を向上させるために主体的に調整や工夫をおこなっている。
- ④ 取組み・粘り強さ：ふた付きパズルのデザインに関心を持ち、パズルの面白さや魅力・機能について考え、美しく効果的なデザインを工夫する表現活動に自ら調整し、粘り強く取り組もうとしている。
- ⑤ パズルのよさや面白さや美しさを感じ取り、形や色、表現の工夫などについて考える鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。

# ●府立高校 評価の実践事例 美術Ⅱ：題材「木工・ふた付きパズル」

## 題材の流れ

「ふた付きパズル」を制作するという課題を理解する。  
(1時間)

10以上の「ふた付きパズル」のアイデアスケッチをし、主題を生成する。  
(1時間)

アイデアを練り直しながら、デザインを決定する。  
(2時間)

実寸大のパズルの型紙を板に転写し、糸鋸で切る。  
(1時間)

ふた・底を接着する。  
(1時間)

アクリル絵具で色塗りをする。ニスを塗り、仕上げる。  
(8時間)

・相互鑑賞シートを作成し、お互いのパズルでタイムトライアルをする。  
・プレゼンテーションシートを作成する。  
(2時間)

## 「主体的に学習に取り組む態度」の総括的評価の詳細と判断基準

### 評価場面：アイデアスケッチ

#### 詳細

「ふた付きパズルを制作する」という課題の内容を理解したうえで、10個以上のアイデアスケッチを作成する。  
その中から2つに絞り、ブラッシュアップする。

Point! 「アイデアの数」「アイデアの質」「アイデアをブラッシュアップし、改善や工夫をしているか」を評価のポイントとした。



#### 判断基準

「十分満足できる」状況 (A)	「概ね満足できる」状況 (B)	「努力を要する」状況 (C)と判断された生徒に対する支援のてだて
Bを満たし、さらに意欲的に数多くのアイデアやバリエーションを出し、ブラッシュアップしている。	アイデアスケッチ・エスキース・メモなど数多く作成することで、主題を生成し、構想を深めようとしている。	具体例を挙げながら、アイデアの数を増やせるように助言する。

# ●府立高校 評価の実践事例 美術Ⅱ：題材「木工・ふた付きパズル」

## 「主体的に学習に取り組む態度」の総括的評価の詳細と判断基準

### 評価場面:振り返り、相互鑑賞

#### 詳細

- ① お互いにパズルを交換してタイムトライアルをする。その後、相互鑑賞シートに記入し、主体的に他者の作品の内容や良さを感じ取り、作者の意図や表現の工夫などについて考える鑑賞の創造活動に取り組む。
- ② 振り返りシートでは、自分の活動を客観的に振り返り、自分の作品を言語化して表現する。

#### 判断基準

「十分満足できる」状況 (A)	「概ね満足できる」状況(B)	「努力を要する」状況 (C)と判断された生徒に対する支援のてだて
Bを満たし、さらに他者の作品の良さを見取り、今後の自分の創造活動にフィードバックするよう取り組もうとしている。	自分や他者の作品について、作品のよさや表現の意図と工夫について、言語化して表現している。	いろいろな観点から作品を鑑賞して、自己を振り返ることを促す。

#### 実際の評価例

ワークシートの問い：  
「相互鑑賞した後、自分の作品をあらためて見て、もっと良くするにはどうしたらよかったですか？」

#### 生徒の記述例

「十分満足できる」状況(A)	「概ね満足できる」状況(B)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・色が全体的に暗く見えるので、枠の色を明度の高い色にしてもよかった。</li> <li>・ピースの形の一つ一つがもっと独立した形で考えたら、それぞれの造形も楽しめてもっと面白くなるんじゃないかと思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色数が少ないとあまり面白みがないので、もっと色数を増やして塗ろうと思った。</li> <li>・ピースを減らして、配置・配色に気をつければよと思った。</li> </ul>

Point！〔共通事項〕の内容や造形的な見方・考え方で、より具体的に振り返ろうとしているかに注目した。





# ●府立高校 評価の実践事例 美術Ⅱ：題材「木工・ふた付きパズル」

## その他の場面での評価例

〈アイデアスケッチを評価材料として〉

★「限られた木材からピース部分を大きくとるため、輪郭（上部）の形を修正したほうがよいのでは？」という助言を受け、デザインも含め改善できている。



Point！アドバイスや制作活動を通して、本人が主体的に改善に取り組み、良い変化が表れていることが評価できる。

〈振り返りシートの記述内容と作品を総合的に見取る〉

★（ワークシートの記述内容）はじめ先生に「茶色ばかりになってしまうのでは」というアドバイスをもらい、茶色以外のモチーフを考えたり、茶色の色にこだわったりして、視覚的にも楽しいパズルを意識した。



作品例

Point！ワークシートと作品を合わせて評価することで、評価者がより生徒の状況を理解した評価をすることができた。ただし、評価したい内容が表出するような問いを工夫する必要がある。



「主体的に学習に取り組む態度」は、忘れ物が多いとか、静かに制作しているなどの生徒の性格や行動面を評価するのではなく、**美術、工芸科の学習内容を「どう学ぼうとしたのか。」**に注目することが大事。

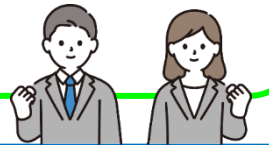
授業に取り組む「真面目さ」や「几帳面さ」は学習を進めるうえで基盤となるものなので、もちろん大切なもの。

ですが、その先にある美術、工芸の学びにどう向き合っているのかを見取りたい。

具体的には、美術、工芸の学習活動の中で

- ・造形的な視点について理解しようとする姿
- ・主題をもとに、創造的な技能を働かせようとしたりする姿
- ・鑑賞の学習活動では、見方や感じ方を深める中で、自分にとっての意味や価値を作り出そうとする姿

などに注目します。



# 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の考え方：まとめ

芸術科（美術、工芸）の学習において教員は、

- 意欲の高まりや創意工夫を重ねたりする態度などに注目し、単発的に見取るのではなく、**題材を通した継続的な高まり**を重視すること
- 完成作品だけでなく、制作の過程も同様に重視し**「生徒が何を学び、何について考えたのか」**を見逃さないようにすること

が大切です。



そのために教員は、

- 形成的評価を継続的に行い、助言をする。
- どういう意図をもって制作をしたか、どういった点を工夫したか、など学習の過程を記述させる。
- 題材を通して何を学んだのか、という変容を生徒自身が把握するために、自己評価や相互評価の場面を設定する。

それにより

観察や成果物により

- ・よりよい表現のために試行錯誤しているか
- ・様々な方向性を探ったり、創意工夫しているか



ワークシートの記述等により

- ・作品だけではわからなかった表現の意図や工夫したところ
- ・造形的な視点を働かせて自身や他者の作品を鑑賞し、良いところや改善点を見つけられているか
- ・気づきや学んだことを今後にかそうとしているか

などを評価できる。

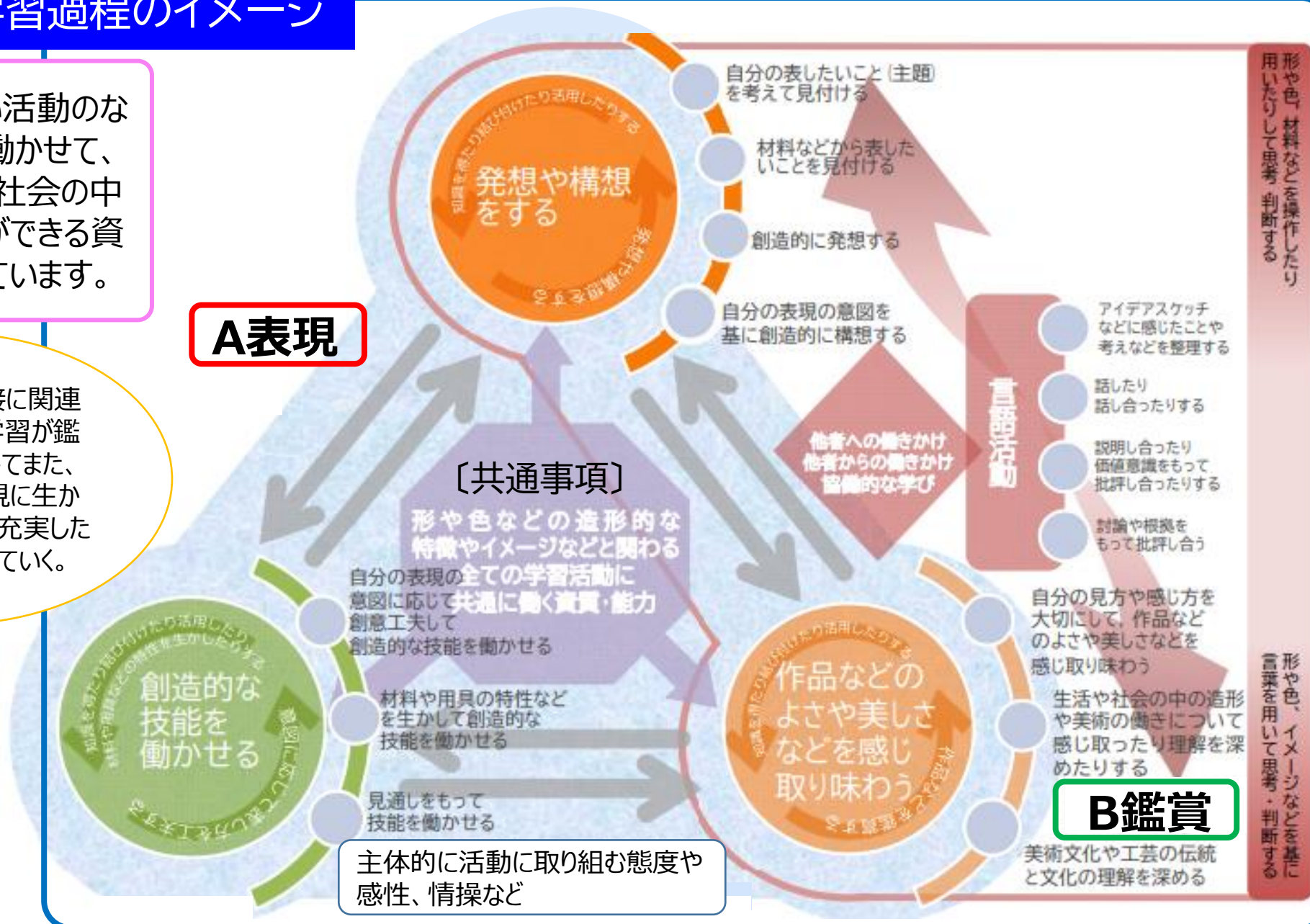
# 美術、工芸科における学習過程のイメージ

「A表現」及び「B鑑賞」の幅広い活動のなかで、造形的な見方・考え方を働かせて、美的体験を重ねながら、生活や社会の中の美術や美術文化と関わるることができる資質・能力を育成することをめざしています。

表現と鑑賞は密接に関連しており、表現の学習が鑑賞に生かされ、そしてまた、鑑賞の学習が表現に生かされることで、一層充実した創造活動に高まっていく。

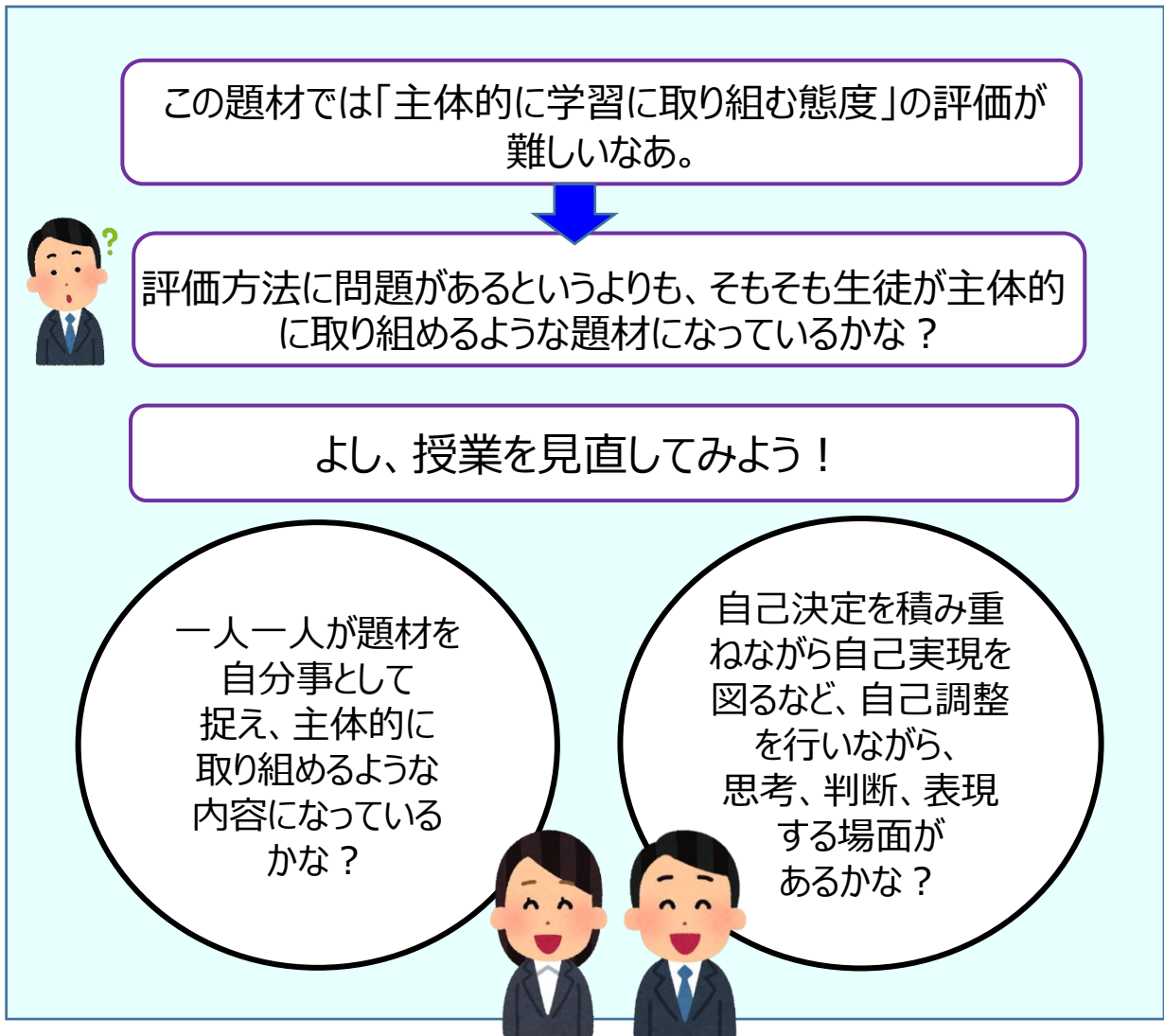


〔共通事項〕は表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力として示されたもの。造形的な視点として豊かに働くように、題材のどの場面でもどのように指導していくかを明確に位置付ける必要があります。





# ●美術、工芸科における学習過程を意識した府立高校の実践事例 美術 I：題材「静物画（油彩）」



「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価のポイントは授業改善にある！

例えば、技能面に注目が向きがちな「観察して描く」ことを主とする題材「静物画（油彩）」の実践事例で検証してみよう！

## 題材の流れ

- 油彩画の歴史や特徴、材料や道具の扱い方をワークシートに書き込みながら学ぶ。（2時間）
- 与えられたモチーフ（靴）を机に置いて、構図を決める。（1時間）
- 下地を塗る：任意に一色を選び、キャンバスに下地処理を施す。（1時間）
- 制作1：おつゆ描き（カマイユ技法）を施す。（1時間）
- 制作2：彩色する。（6時間）
- プレゼンテーション  
鑑賞し合い、鑑賞ワークシートにまとめる。（1時間）



# ●府立高校 授業の工夫の実践事例 美術 I : 題材「静物画 (油彩) 」

## 目標

【学びに向かう力、人間性等】の目標

- (表現に関する目標) 対象に魅力を主体的に生み出し、イメージなどを総合的に捉え、自らの絵画表現の可能性を追求し、見通しをもって創造活動に取り組む。
- (鑑賞に関する目標) 他者の表現を尊重するとともに、作者の心情や意図、創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めようとする鑑賞の創造活動に取り組む。

この目標を達成するために  
どういった授業の工夫が考えられるだろうか。

## 授業の改善案①



生徒自身が主題を生み出す場面があれば、より主体的に取り組めるのではないか。  
→**描く対象とするモチーフを一定の条件を与えた中で生徒が探すことができるようにする。**

## 授業の改善案②

生徒が主体的に自分で思考したり、判断する場面が作れないかな？  
→**作品のテーマや作品タイトルを生徒が考える。  
主題を生成したり、表現方法について自分で思考・判断する場面を増やすようにする。**



## 授業の改善案③

長時間におよぶ題材の終末だけでなく、中間にもヤマ場があれば…

→例えば、**中間発表を行い、自己の制作プロセスを振り返ったり、他の生徒の表現の意図や表現方法から得たことを自身の作品に生かしたりできるようにする。**



**指導者だけではなく、学習者自身がPDCAサイクルを回せるようになることが理想。**

## 授業の改善案④

ただ見て描くのではなく、意図やねらいを持ちながら制作するような授業の工夫はできないか。

→例えば**クロームブックの写真機能を使って、構図の検討の参考にする。**

**生徒が客観的な視点で検証を重ねることができる。**

→**生徒が構図について、より主体的に考察できるようになるためにアイデアスケッチで用いるワークシートを用意する。**

(ワークシート例を11ページに掲載)

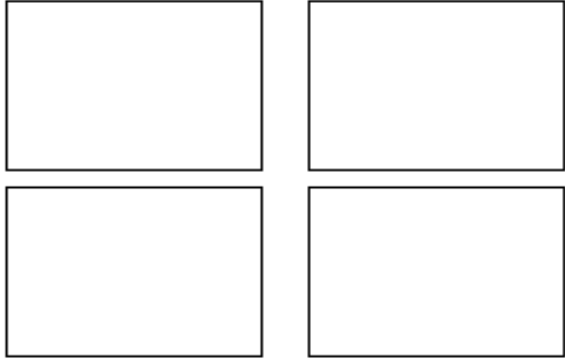


## ワークシートの例

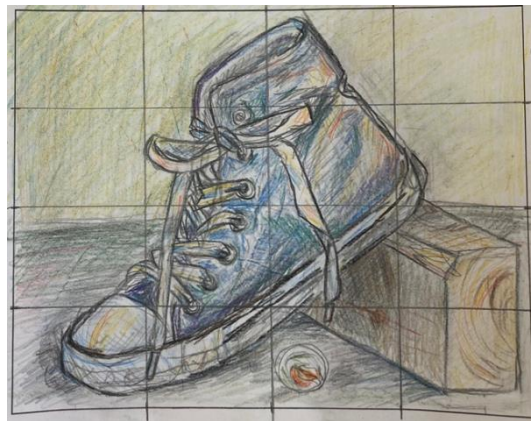
アイデアをできるだけ多く出してから、それぞれの案を検証しながら考えを収束させていくような構造にした。生徒の思考の過程を指導者も把握でき、助言に生かすことができる。



ラフスケッチ: その1  
モチーフの配置を考えよう。3つ以上、案を出すこと。



ラフスケッチ: その2  
3つのモチーフのバランス、前後関係、影、余白などに気をつける。



「主体的に学習に取り組む態度」を評価する際は、よりよい構図を探そうと試行錯誤を繰り返し、自らの学習を調整しながら粘り強く学ぶ姿に注目した。

最終的に決定した構図

## 授業の改善案⑤

学習をどのように調整(改善)しようとしたのか、自身の学びについて振り返ることができるような方法はないだろうか。

→制作の過程で考えたことを整理するようなワークシートで自身の作品について言語化するようにしてみる。

### 作品の分析マップ

中央の□に作品を描き、周りに構図や技法、表現の工夫と分析を文字で記入すること

作品のスケッチ

全体の雰囲気は……

構図について考えたことは……

タッチは……を意識するようになりました。

…を表すために…するように工夫しました。

色を重ねる時に悩んだところは……

振り返ると、……

※評価の際は、作品とワークシートの記述を補完的に組み合わせて総合的に見取することも考えられます。



Point! ワークシート等の内容を「主体的に学習に取り組む態度」の評価として用いる場合は、ワークシートの問いの「質」がキーとなります。

## 参考資料(1) 実践事例 美術Ⅱ 題材「木工・ふた付きパズル」

### 参考資料

#### (1) 実践事例

美術Ⅱ題材「木工・ふた付きパズル」

#### (2) 芸術科、美術Ⅰ、工芸Ⅰの目標

#### (3) 参考となる資料やWebサイトの紹介



1. 教科・科目名:芸術科・美術Ⅱ
2. 題材名:木工「ふた付きパズル」

#### 3. 題材の評価規準:

##### 【知識・技能】

- 形や色、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、パズルのデザインを全体のイメージや作風などでとらえることを理解している。
- 意図に応じて、材料や道具の特性を生かすとともに、表現方法を工夫し、主題を追求して創造的に表している。

##### 【思考・判断・表現】

- 目的や条件、感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、形や色、構造について考え、創造的な表現の構想を練っている。
- デザインの目的や機能との調和のとれた美しさや面白さを感じ取り、作者の心情や意図と創造的表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。

##### 【主体的に学習に取り組む態度】

- 主体的に目的や条件、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に取り組もうとしている。
- 主体的に作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の意図や表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。



# 参考資料（１） 実践事例 美術Ⅱ：題材「木工・ふた付きパズル」



## 4. 指導と評価の計画

時	学習内容 [何を学ぶか]	学習活動 [どのように学ぶか]	評価の観点			評価規準【観点】（評価方法等） [何ができるようになるか] ※実現したい生徒の姿
			知	思	主	
1 ・ 2	○「ふた付きパズル」を制作するという課題を理解する。 ○主題を生成する。	○10個以上の「ふた付きパズル」のアイデアスケッチをする。		●		(アイデアスケッチ) ●思：幅広いアイデアを数多く、だせている。
<b>形成的評価＝指導に生かす評価</b>						
3 ・ 4	○教員の助言を生かし、アイデアを練り直し、デザインを決定する。 ○制作を通して工程・材料・道具の特性を理解する。	○構想を練り、デザインを決定する。 <b>評価場面 1</b> ○実寸大のパズルの型紙を作る。 ○板に写す。 ○糸鋸で切る。	○	○	○	(アイデアスケッチ、観察) ○知・技：1学期前半の学習を生かして、表したい主題を効果的に視覚化している。 ○知・技：工程・材料・道具の特性を理解している。 ○思：アイデアスケッチをブラッシュアップし、創造的に構想を練っている。 <b>○主：美しく効果的なパズルのデザインを表現する創造活動に粘り強く取り組もうとしている。</b>
<b>総括的評価＝記録に残す評価</b>						
5 ・ 6	○制作を通して工程・材料・道具の特性を理解する。 ○目標の設定・計画・検証と修正等の調整しながら創造活動に取り組む。	○枠を切り抜き、ヤスリをかけ、パズルを完成させる。 ○ふた・底を接着する。	●		●	(作品、アイデアスケッチ、観察) ●知・技：工程を理解し、正確かつ丁寧に作業している。 ●主：目標の設定・計画性・検証と修正等の調整をしている。 ●主：創造活動に粘り強く取り組もうとしている。
7						

●…形成的評価、○…総括的評価

10						
11 ・ 12 ・ 13 ・ 14	○色・形を生かしてデザインし、全体のイメージでとらえる。 ○創造活動に粘り強く取り組む。	○アクリル絵具で色塗りをする。 ○ニス塗りをする。			●	(作品、観察) ●知：表したい内容、目的に合った色彩の使用が来ている。 ●思：アイデアを具体化するために形と色の組み合わせや木工としての効果を考え、創意工夫している。 ●主：創造活動に粘り強く取り組もうとしている。
15 ・ 16	○他者のパズルと比較し、美しさや魅力を感じ取り、鑑賞の創造活動に取り組む。	・創造活動の振り返りをする。 ・相互鑑賞シートを作成し、お互いのパズルでタイムトライアルをする。 ・プレゼンテーションシートを作成する			○	(作品、振り返りシート、相互鑑賞シート、観察) ○知：ワークシートの各項目を造形的な視点で作品を捉え、書いている。 ○思：アイデアを具体化するために形と色の組み合わせや木工としての効果を考え、創意工夫している。 ○思：作品の造形的なよさや美しさを感じ取り作者の表現の意図や表現の工夫などのついて考え、見方や感じ方を深めている。 <b>○主：友人との相互鑑賞での新たな気づきを今後の創造活動に生かそうとしている。</b>



### 芸術科 目標の柱書

**芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。**

#### 美術Ⅰにおいて育成すべき3つの資質・能力とは？

##### 【知識及び技能】

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

##### 【思考力、判断力、表現力等】

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

##### 【学びに向かう力、人間性等】

(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

Key word: 造形的な見方・考え方

感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を**造形的な視点**で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。

#### 工芸Ⅰにおいて育成すべき3つの資質・能力とは？

##### 【知識及び技能】

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

##### 【思考力、判断力、表現力等】

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

##### 【学びに向かう力、人間性等】

(3) 主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

Key word: 造形的な視点

造形を豊かに捉える多様な視点であり、形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりする視点のこと。

- ・芸術科(美術)における生徒の「主体性」を引き出す授業づくりに向けたリーフレット

**大阪府教育センター** Osaka Prefecture Center of Education

## 生徒の「主体性」を引き出す授業づくりに向けた

ここでは、高等学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について、するうえでの課題、課題解決にむけた実践事例、実践の振り返りなどを紹介します。

教科	成果物
国語科	<a href="#">リーフレット (PDF 1275KB)</a>
地理歴史・公民科	<a href="#">リーフレット (PDF 778KB)</a>
数学科	<a href="#">リーフレット (PDF 1862KB)</a>
理科	<a href="#">リーフレット (PDF 1041KB)</a>
保健体育科	<a href="#">リーフレット (PDF 834KB)</a>
芸術科 (音楽)	<a href="#">リーフレット (PDF 1021KB)</a>
芸術科 (美術、工芸)	<a href="#">リーフレット (PDF 1279KB)</a>
外国語科	<a href="#">リーフレット (PDF 800KB)</a>
家庭科	<a href="#">リーフレット (PDF 1264KB)</a>

課題解決に向けた授業の実践やワークシートの工夫例も掲載しています。



- ・高等学校学習指導要領解説 芸術編

[https://www.mext.go.jp/content/1407073\\_08\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1407073_08_2.pdf)



美術、工芸科の各科目の目標や内容、指導事項など授業を考えるうえで基準となるものです。



- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

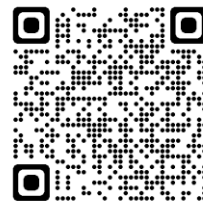
【高等学校 芸術（美術）編】

[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820\\_hig\\_bijutsu.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_bijutsu.pdf)

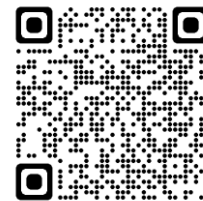
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

【高等学校 芸術（工芸）編】

[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820\\_hig\\_kougei.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_kougei.pdf)



美術



工芸

具体的な実践事例とともに評価について詳しく解説しています。



- ・「観点別学習状況の評価」実施の手引き 各教科事例集

<https://www.osaka-c.ed.jp/category/forteacher/pdf/kanntenbetsu%20.pdf>